第六講　学問論

旅では――未知と偶然の要素を多く含んだ旅では――日々は私たちにとって新ならざるをえない。そして日々新であるなかで、よりつよく私たちの好奇心は突き動かされ、働くようになる。ふつう〈好奇心〉などというと、あまりいい意味にとられない場合が多い。なにか面白いことはないかと知らなくてもいいことまでむやみに穿鑿（せんさく）する心、あるいはもの好きといったような意味に解されている。けれども好奇心とは、私たち人間の知的活動の根源をなす情熱、つまり知的情熱にほかならない。

好奇心というとあまりいい意味にとられない、といった。しかし実はそれ以前の、情熱（情念、パトス）そのものが、これまで一般に永い間、はしたないものとされてきたという事情がある。情熱は人間の心の平静を乱し、人間を真理から遠ざけるものだとされてきた。しかしそのような見方はきわめて一面的なものでしかない。『百科全書』の編者として知られるディドロ（『哲学的思索』）が、その点でたいへん適切なことを言っていたのを思い出す。

すなわち、ひとは情念（情熱）の悪い面ばかりを見て、むやみに情念を排斥する。しかし情念は、一方であらゆる苦悩の源であるだけでなく、同時に他方では、あらゆるよろこびの源泉でもある。偉大な情念によってはじめて、人間の魂は偉大なものごとに到達しうるのだ。これに反して控え目な感情は凡庸な人間をつくり、弱々しい感情はもっともすぐれた人間をも台なしにしてしまう。「控え目にばかりしていると、自然の偉大さとエネルギーが失われる。樹木を見るがいい。A豊かに葉を繁らせているそのおかげで、諸君たちは爽やかに拡がった木陰をうることができ、冬がやってきてその繁った葉がなくなるまで木陰を愉しむことができる。およそ誰でも、小心翼々として生き、気持が老いこんでしまうと、もはや詩作にも絵画にも音楽にも、すぐれた仕事ができなくなるのだ。」もっともディドロは、このような主張の前提として、「感情のうちに正しい調和が確立されている限りのことだが」と述べることを忘れていない。

控え目な感情は凡庸な人間をつくり、ひとは小心翼々としていると創造的でありえなくなる。これは行きすぎた抑制や禁欲的態度がおちいりやすい陥穽を示している重要な指摘である。いうまでもなくそれは、詩・絵画・音楽といった狭い意味での芸術にかかわるだけではなく、もっと広い人間の知的活動や精神的活動にもかかわっている。だから、たとえどんな小さなことにせ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

よ、日に日に発見や創造のよろこびをもって生きていくためには、通常考えられているより以上に、知的情熱としての好奇心をいきいきと保っておかなければならないのである。

ところで、知的情熱としての好奇心とは、とくに、私たちが世界や自然やものごとに向けるつよい関心のことである。そして、知識よりもなによりも関心（インタレスト）こそがあらゆる文化や学問の原動力である、と言えそうだ。関心こそが知を拓くのである。たとえば、次のような事実がある。すなわち、私たち人間の文化の根幹を形づくっているのは言語や概念の体系であろうが、それらの体系の精密度は文化によってちがう。といってもそのちがいは、その文化や社会に属する人々の知的能力の差によるのではなくて、細部のものごとにまでどれだけ関心を示すかという、関心のつよさの差によるのである。この重要な事実を説得的なかたちで示してくれたのは、レヴィ＝ストロース（『野生の思考』）であった。

すなわち、それは女性の人類学者スミス・バウエンの体験談として示されている。彼女はアフリカの或る部族の調査に行ったとき、まず最初に彼らのことばを覚えようとした。その際、インフォーマント（現地人の情報提供者）たちは、初歩の段階で植物の見本をたくさん集めてきて、それらを示しながら一々の名前を言うというかたちで、彼女にことばを教えてくれた。それは彼らにとっては、ごくあたりまえのやり方だった。ところが彼女には、それらの植物が識別できなかった。なぜか。それらの植物が見慣れないものだったからではなくて、彼女がそれまで、植物界の豊かさや多様性そのものにほとんど関心がなかったからである。それに反して現地人たちの方は、そのような興味は誰でも当然もっているものだと信じていたのである。

スミス・バウエン自身のことばでいえば――「彼らにとって植物は、人間と同じように重要で、また同じように親しいものでした。ところが私の方は、農家の生活をした経験がなく、ベゴニアとダリアとペチュニアとを見分けることにも自信がなかったのです」「私が入りこんだ社会は、野生植物であろうと栽培植物であろうと、植物にはすべてはっきりきまった名前と用途があって、男も女も子供も、誰でも何百種という植物を知っているような世界でした。彼らほどに植物を知ろうとしたところで到底私には不可能でしょう。その上、たとえ私がそれを言っても彼らは[B]それが本当だとは誰一人信じてはくれないでしょう」。

（中村雄二郎「知の旅への誘い」より）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問１　傍線部Ａで、樹木が「豊かに葉を繁らせている」状態は、何をたとえたものか。あてはまる語句を本文中から五字以内で抜き出せ。

問２　傍線部Ｂの「それ」について、何をさしているか。四十字以内で答えよ。

問３　この文章全体の主題を示すものとして最も重要な語句を本文中から選び、漢字二字で記せ。

問４　スミス・バウエンの体験談から、どのようなことがわかるか。六十字以内で説明せよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第六講　知識モノ解説

文学史・人物解説

●ディドロ（一七一三〜一七八四）
↓ダランベールとともに『百科全書』を編纂（へんさん）し、知の民主化に貢献
●クロード＝レヴィ＝ストロース（一九〇八〜二〇〇九）
↓フランスの文化人類学者。文化人類学（未開地域・非欧米文化研究）を世界的にメジャーにした二〇世紀最高の知性の一人。元コレージュ＝ド＝フランス教授。ブラジルのジャングル奥地のマトグロッソインディオの研究で知られる。著書『悲しき熱帯』
↓「鏡」としての文化人類学／カルチャーショックとは、異国文化の特異性に驚くのみならず、ひるがえって自国文化の特異性に気づかされ驚くこと

語句

穿鑿＝せんさく↓細部までさぐり知ろうとすること
パトス↓ギリシャ語で情熱・情念　英語のパッション
陥穽＝かんせい↓落とし穴
小心翼々＝しょうしんよくよく↓小さなことにびくびくする

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第六講

次の傍線部にあたる漢字を、次の各選択肢から選びなさい。

（ア）哲学的なシサクにふける　①作　②索　③策　④柵　⑤錯

（イ）あらゆる喜びのゲンセンとなる　①現　②元　③原　④源　⑤厳

（ウ）目標にトウタツしうる　①到　②頭　③答　④踏　⑤倒

（エ）言語と概念のタイケイ　①型　②形　③系　④計　⑤傾

（オ）重要なシテキである　①的　②適　③滴　④笛　⑤摘

（カ）文化のコンカンを形づくる　①観　②幹　③間　④官　⑤館

（キ）言葉のセイミツ度を上げる　①精　②正　③聖　④清　⑤製

（ク）情報のテイキョウ者に会う　①協　②共　③京　④供　⑤教

（ケ）植物をサイバイする　①倍　②陪　③賠　④媒　⑤培

（コ）私にはトウテイ不可能だ　①低　②体　③呈　④底　⑤抵

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第六講　学問論

《本文の対比構造》

主役

筆者の見解＝好奇心のポジティブ面重視＝人間の知的活動の根源をなす情熱・知的情熱・偉大な情念・文化や学問の原動力・関心／ディドロ／レヴィ＝ストロース

↕ **主な対比**

敵役

一般論＝好奇心のネガティブ面＝穿鑿（せんさく）・もの好き／**世間が重視しがちなもの**＝控え目な感情・弱々しい感情・小心翼々／スミス・バウエン

小さな対比（主役 ↔ 脇役）

脇役

知識・知的能力の差

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

《解説》

問１《傍線部説明・抜き出し》

樹木の「豊か」さは、「控え目な感情」「弱々しい感情」とは対比的な主役メッセージを表現したものです。さらに字数が五文字以内ということで、候補には「好奇心」「知的情熱」「偉大な情念」が挙がります。意味の上ではいずれもＯＫなのですが、あえてひとつだけ、完全解答と呼べるものを選ぶとき、**周辺表現の類似**が重大なヒントになります。すなわち、傍線部「豊かに葉を繁らせている」の周辺「そのおかげで～でき、～できる」と、「偉大な情念」の周辺「～によって～しうるのだ」の類似に着目します。こうして周りが類似（一致）なら中身も類似（一致）と考えて「偉大な情念」を選びます。

問２《指示語説明・記述》

スミス・バウエンの具体例内にある指示語の内容を書きます。したがって、問4とは異なり、具体例中の表現を拾います。**対比の表現・繰り返されている表現は大事**という原則にもとづきながら、「それ」の指示内容、つまりスミス・バウエンの言動内容を記述します。第一ポイント「植物(界)の豊かさや多様性」（豊かさと多様性はどちらか一方でもＯＫ）、第二ポイント「(植物に) 関心がない」「興味がない」「好奇心がない」など、第三ポイント「現地人に比べ」、第四ポイント「識別できない」「覚えられない」。以上の四つのポイントのうち、二つ取れたら上出来です。

問３《主題理解・抜き出し》

主役キーワード、しかも漢字二字とまで限定された抜き出しです。知的情熱としての好奇心をまとめあげた表現として、第五段落に「関心」とあります。さらに「関心こそ」などの強調表現があること、「知識」「知的能力の差」などの対比もともなっていて、決定的です。最終段落の一行前に、同じ意味のことば「興味」があります。しかし、これはスミス・バウエンの体験談という具体例に出てくる単語です。**具体例は一段落ちる、具体例よりまとまった表現が大事**、この原則から、「興味」は選びません。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問４《内容説明・記述》

問３の解説にも示した通り、スミス・バウエンの体験談は具体例です。したがって、その例自体を書いてはダメです。その例は、そもそもどんな大事なことを語るための例だったのか。それは第五段落です。さて、記述答案づくりの三大原則＝**具体例はカット・対比の表現・繰り返されている表現は大事（ただし一本化）**にもとづいていきましょう。得点になる「ポイント箇所」は次の通りです。第一ポイント「文化や学問の原動力は～」「知を拓くのは～」「文化の根幹は～」、第二ポイント「言語や概念の体系（言語だけでもＯＫ）」、第三ポイント「その（言葉の）精密度」、第四ポイント「知識ではなく」「知的能力の差ではなく」、第五ポイント「関心である」「関心のつよさの差による」。これらポイント箇所の順番は問いません。自分の答案にそれらポイント箇所に該当する単語があれば、加点します。全五ポイント中、三つ以上取れるとよいですね。

模範解答

問１　偉大な情念　問２　植物界の豊かさや多様性に関心がなく、現地人ほどには識別することも不可能なこと。（三十九字）

問３　関心　問四　文化の根幹を形づくっているのは言語の体系であり、その精密度は知的能力の差ではなく関心のつよさの差によるということ。（五十七字）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第六講

（ア）②
（イ）④
（ウ）①
（エ）③
（オ）⑤
（カ）②
（キ）①
（ク）④
（ケ）⑤
（コ）④

解答漢字一覧

（ア）思索
（イ）源泉
（ウ）到達
（エ）体系
（オ）指摘
（カ）根幹
（キ）精密
（ク）提供
（ケ）栽培
（コ）到底

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。